

琉球大学学術リポジトリ

琉球絣の文化と美的価値

メタデータ	言語: 出版者: 日本家政学会 公開日: 2007-10-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 富士栄, 登美子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/2239

2 Ea-3

琉球絣の文化と美的価値

富士栄登美子（琉球大）

〔目的〕 絣の技法を日本本土に伝えたのは沖縄である。日本の絣は、なかでも琉球（沖縄）の絣は天下無類であると柳宗悦は述べている。沖縄の染織の世界は広く、どの世界の中にも絣が入り込んでいることに気づく。何気ない絣を取り込むことで、その染織の美的効果を生み、引き立たせることになる。縞だけだった芭蕉布に絣を取り込んだり、縞と絣の組み合わせは最もよくなされる場所である。沖縄という亜熱帯気候に生まれ現代の生活の中に今も尚生きている絣文化の特徴、および琉球絣の美的価値について論じる。

〔方法〕 沖縄独自の絣文化と美を生み出す要因を検討するために、第一に、その考察の基礎となる絣織の素材、染料、技法を調べ、多くの実物を見る方法をとった。第二に、沖縄島南部にある「絣の里」の南風原町役場、南風原文化センター、大城絣工房へ出向き、絣柄の名称なども含めて、生活に密着している絣文化の特徴とその美的価値を検討した。第三に、生活を題材にした琉球舞踊衣裳について考察を深めた。

〔結果〕 土地で育った植物からの繊維を使い、染め、織ったものは、その土地で暮らす人間の服飾として、最も自然であり、受け入れられるものとなり得る。沖縄という亜熱帯気候の中での素材とデザインは、自ずと風を取り入れ、光を透け、涼感を誘う美的価値を有する。また琉球舞踊の中の雑踊りには生活を題材にした演目が多く、その衣裳に絣が多く使われている。琉球絣は風土の中で生まれ育った美的価値を有する服飾文化といえる。